

## 第4回城端線・氷見線再構築検討会の開催結果

1. 日時 令和5年11月29日（水）9時30分から10時20分まで
2. 場所 富山県庁4階大会議室
3. 出席委員  
新田知事、角田市長、林市長、夏野市長、田中市長  
JR西日本金沢支社漆原支社長、あいの風とやま鉄道日吉社長、  
北陸信越運輸局笠原鉄道部長（オブザーバー）
4. 概要
  - (1) JR西日本から、同社からの拠出金について説明
  - (2) 再構築実施計画（案）の概要について事務局から説明
  - (3) JR西日本からの拠出金や実施計画（案）について意見交換
  - (4) 今後各議会での議論を踏まえて次回検討会で実施計画案を取りまとめること了承
  - (5) 意見交換（主なもの）
    - ・再構築実施計画案は、これまで利便性の向上等で検討してきた内容がしっかり盛り込んだ形になっている。
    - ・費用負担は、沿線市にとっても大きな負担になってくると思っているため、12月議会でご意見をいただきながら、しっかりと方向性を議論していきたい。
    - ・ICカードは、2年と言わずなるべく早くやっていただきたい。
    - ・降雪があると運休が多いという印象がある。これまでに比べて改善されるのであればアピールしていただきたい。
    - ・ソフトの直通化として、運行本数を増やして乗継の利便性を良くしていただきたい。
    - ・令和4年度に比べて2,400人の利用者増を見込んでもマイナスの収支差が出る。公共交通を活かしたまちづくりの一環として投資をし、マイルール意識を持って公共交通を使ってもらうことが重要。
    - ・この計画は、事業者と自治体と国の役割分担、責任分担によって、地元主体で公共交通の利便性向上が図られるものである。今後の地域交通のあり方としてのリーディングケースになり得るものと認識しており、JRとしても最大限努力していきたい。
    - ・JRは、今後安全で持続可能な路線となるように、経営移管後も人的、技術的な面で協力するとともに、広域周遊観光での利用促進を強力に推進して、利用者が少しでも増えていくことを目指していきたい。
    - ・レールやまくら木、連動装置などの既存施設を再整備した上で譲渡していただけているが、移管後も整備が続く可能性がある。その場合はあいの風からJRに委託という形になると思うが、JRには最後まで責任を果たしていただきたい。
    - ・公共交通は「社会インフラ」であり、公共サービスであることを踏まえ、議会の場でも丁寧に説明いただきたい。
    - ・再構築実施計画を将来の投資として、子供たちが大きくなる頃にもしっかりと持続可能な鉄道を目指してやっていくことを皆様に理解いただけるよう、努力したい。